

# 三條別院のご案内

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

E-mail : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

## 三條別院に想う

私は三歳の頃に祖母からお念仏をいただき、その後、高校で教師をしていた四十三歳の頃にうつ病を患った。今から思うと、祖母が亡くなって半年後のことだ。以後、十年間、色彩のない白黒の世界で過ごした。ただし、私の異常に気づいたのは不登校の生徒たちだけだ。五十歳の頃に退職して住職となったが、同僚も生徒も失ったうえに、せつかく親しくなった檀家の方が次々と亡くなるわ、二人の叔父が相次いで亡くなるわで、抑鬱状態がひどくなっていた。そんな折、三條別院で開催された菅原伸郎という元新聞記者の学習会に参加した。その冒頭、菅原先生は次のような話をされた。「ある女性がガンになって入院した。ある日、病室のベッドで横になっていると、窓からカーテン越しに日が差し込んでるのが見えた。その光を見て、女性は思った、『ああ、浄土だ』と。その後、見舞いに来た人に、女性は言った、『ガンになるのも、悪いことばかりじゃないわ』」

その話を聞いて、「そうか。そうくるのか」と手掛かりをつかんだ。その二日後、東日本大震災が起きた。原発も爆発した。目の前が真っ暗になりながら、檀家の方を引率して本山の御遠忌に出かけた。ご法要については、ただ寒かつ

たことと、最後に本堂に響き渡った「恩徳讃」の大合唱だけ、ぼんやりと覚えていた。

その一ヶ月後の五月二十五日、真宗寺の前々坊守様の葬儀の後、気分転換にドライブに出かけた。寺泊の海岸を走行中、ふと、窓の外を見て「あつ、海が青い」と思ったその瞬間、体の底から生きる喜びが沸きあがった。「ああ、いま浄土にいる。だから、どこか別の所に行く必要はないんだ」という思いと同時に、百万年の重荷が肩から降りて、青い空が、白い雲が、木々の緑が輝きだした。青色青光、黄色黄光、赤色赤光・・・ほんの二、三秒のことと思う。もう私に輪廻はない。

こうして、私は生き返った。おかげで今も生きています。三條別院、ありがとう。でも、その一方で、しばしば「真実を求めなさい・・・」と催促されて困る。去年も、楠雅丸さんが御遠忌実行委員長に就任した際、「知人から『真実の月を指し示すことを忘れないでくださいよ』と要望されました」と挨拶された。真実って何だべ？「いづれ分かる」と日野賢之師は言うが。

## 第二十一組勝念寺住職 今湊良信氏

○次回の「三條別院に想う」は、

松本雅裕氏（佐渡組善宗寺）より

ご執筆いただきます。

## 清掃講（庭講）がいよいよ始動！！

去る九月一日、清掃講（庭講）の結成式が行われました。

本講は「定例法話聴聞と別院護持をぜひ皆でやりたい！」という声のもと、結成された講です。真宗に有縁の方々、どなたでも結構です。御興味のある方、ぜひ御一緒に清掃講（庭講）に参加してみませんか？活動日は毎月十二日（八月、十二月を除く）の午前中です。参加希望の方はぜひ別院までご連絡を。お待ちしております！



【結成式（上）、第1回活動日（下）】

## 秋 彼 岸 会 報 告

去る九月二十四日～二十六日まで、秋彼岸会・朝の人生講座が執り行われ、二昼夜の法要が勤められました。本年の講師・講題は次の通り。二十四日朝の人生講座、真島修智氏（第十六組光得寺）「知るということ」、速夜法要、倉井光弥氏（第十一組養泉寺）「限界を知る勇氣」、二十五日人生講座、神部響氏（第十三組西方寺）「目が覚める！

お内仏のはなし」、日中・逮夜法要、藤波龍英氏（第十八組西入寺）「仏者、野に立ちたもう」、二十六日人生講座、松木讓氏（第二十四組専明寺）「浄土に生きる」、日中法要、田村大輔氏（第二十組専念寺）「遇うということ〜聞と思〜」。講師の方々は、「知る」「目が覚める」「遇う」等の平易な言葉を通して、自分自身を深く見つめていく浄土真宗の教えをお話しされました。期間中の法話は全七座。御遠忌法要を終え、「地域の間法道場」としての別院の役割について、あらためて考えさせられる秋彼岸会でした。



【真島氏（左上）、倉井氏（中上）、神部氏（右上）  
藤波氏（左下）、松木氏（中下）、田村氏（右下）】

### 秋の別院奉仕研修会（おみがき）のご案内

本年の報恩講を迎えるに当たり、当別院では「秋の奉仕研修会」を開催いたします。伝統的な

仏具のおみがきを中心にした奉仕研修会です。寺族・門徒、どなたでも御参加できます。

- ◇開催日 十月二十三日（金）
- ◇時間 午前九時三十分受付 十時より
- ◇内容 ①仏具のおみがき②野外清掃（庭・境内の枯葉拾い・草取り等の作業）③屋内清掃
- ◇締切 十月十九日（月）
- 別院まで参加者名簿を提出ください。
- ◇参加費 無料（昼食は別院が用意いたします）

### 宗祖御命日の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日（二十七日）はお逮夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

- ◇日時 十月二十八日（水）午前十時より
- ◇会場 三条別院 本堂
- ◇お勤め（御命日 日中法要）  
文類偈 行四句目下  
念仏讚 洵五  
和讃 回口 次第六首  
回向 願以此功德
- ◎今月の法話講師  
朝倉 奏氏（第二十組 金寶寺）

◆今年度の御命日の集いは講師が出られた『教義抄』の

言葉も紹介していただきます。

### ◆今後の講師一覧

- 十一月 富岡教潤氏（第十八組 圓性寺）
- 十二月 田澤一明氏（第十九組 明誓寺）

### 定例法話会

- 毎月十三日の前門首のご命日（両度の命日）に行っている定例法話会を左記の通り開催します。
- ◇日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く  
午後一時三十分より（二時間程度）
- ◇場所 三条別院 旧御堂
- ◇講師 九月〜十二月 黒田真氏（第十一組 法蓮寺）

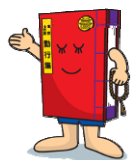
### その他の講座案内

#### ○別院声明教室（全五回）

- （月一回、午後六時〜八時）
- 八月二十日（木）〔透〕、九月十七日（木）〔透〕
- 十月十四日（水）、十一月十九日（木）
- 十二月十七日（木）
- 講習内容 正信偈 草四句目下
- 講師 關根大丘氏（第二十組 松韻寺）
- 参加費 五〇〇円/回

#### ○別院書道教室

- （月一回第二、第四水曜日、午後六時三十分〜八時）
- 講師 木原光威氏（新潟県書道協会理事）
- 月謝 二五〇〇円（テキスト代含む）



○三条別院巡回

三条別院の御影をお迎えして、開法会を開催しませんか？

○別院奉仕研修

日程及び内容についてはご相談ください。

◎冥加金 日帰り一五〇〇円、一泊二百一五〇〇円

◎食事代（昼・夕食は養者発注のため）

・朝食代 五〇〇円、昼食代 一〇〇〇円程度

・夕食代 一三〇〇円程度

○三条別院有志の会

もともと三条別院のお朝事にお参りしている門徒からはじまった清掃奉仕・法話・座談を中心とした有志の会です。月一回の例会、別院行事に併せた奉仕活動や季節ごとの懇親会を行っております。参加希望の方は、ぜひ別院までご連絡ください。

御正忌報恩講団体参拝のご案内

今年も御正忌報恩講団体参拝を計画しております。日程は十一月二十七日から二十九日、二泊三日です。詳細は申込書をご覧ください。以下、前年度参加者から頂いた体験記です。

十一月二十七日、結願逮夜は宗祖親鸞聖人の御真影の前で、御門首をはじめ、大勢の僧侶のご出仕のもとに厳肅なお勤めが始まり、参詣者ともどもお声明の聲が堂内に響き渡りました。参拝のあとは、別院輪番の案内で本山の諸殿を見学させていただきました。

十一月二十八日、本山の開門が通常より三十分早く午前五時のため、午前四時三十分集合、

四時四五分出発で本山へ徒歩で移動しました。

朝の京都は盆地のため、とても冷えると聞いていたのですが今年は温かかったので移動しやすかったです。報恩講結願晨朝は六時三十分から始まり、一時間余りで参拝をすませて、食事を取ることになりました。お弁当が用意されており、交代で休憩所で朝食をいただきました。本日は報恩講結願日中の坂東曲がつとまるためか、御影堂は大勢の参拝者で満堂になってきました。十時から、大勢の僧侶が大きな声を張り上げたお勤めが始まり、一斉に手を合わせてお参りし、久しぶりに厳肅な法会に出会うことができました。生まれて初めての坂東曲は、大変ダイナミックな声明でした。外陣で与板の圓満寺、源川秀教さんが本山堂衆と共に勤めておられました。大寝殿でいただいたお齋は精進料理でお酒

（五環正宗）の用意もありました。『五環正宗』は、江戸時代末期から真宗本廟のお酒として本山で厳修される報恩講をはじめとする法要の時になどに使われており、真宗本廟内のみで販売されているのだそうです。鰻頭、お酒（五環正宗）、みかんを土産にいただきました。参拝記念に輪島塗のはしと東本願寺のしおりも頂戴しました。私たち門徒は、日々お内仏にお参りし、月に一度は手次ぎ寺にお参りし、年に一度は本山にお参りするのがたしなみであるそうです。真宗本廟では、毎年、十一月二日から二八日までの七昼夜にわたり『御正忌報恩講』が勤められます。次回も、都合をつけて大勢の方々とお参りしたいものです。

十五組光善寺門徒 丸山増雄

◆◆編集後記◆◆

臆病な犬は見知らぬ人が近づくと、恐怖から顔をひきつらせ、牙を剥きます。人は咬まれるのが嫌だから、それ以上近づきません。これが「抑止力」の原型です。真宗に通じている人は「オクシリヨク」と読みますが「ヨクシリヨク」です。

「抑止力」は「恐怖心」と伴にあります。

日本では、護身のためにナイフを持ち歩いている人がいます。ナイフが護身のため役だったという話は、聞いたことがありません。ナイフ所持者・愛好者の悲惨な事件は、枚挙に暇がありません。

釈尊は、農民の水争いの現場で「先ず、得物（こん棒などでしょう）を置きなさい」と言います。武器を置いた双方の農民の顔から恐怖が消え、話し合いが始まります。

「美しい日本」とか「強い日本を取り戻せ」とか、気持ち悪いことばを並べていた人が、今度は「一億総ナントカ」なんて言い出しました。何かのアンケートに、強い指導者の出現を望む声が多いとありましたが、日本人は本当に「強いアナタがスキ」で良いのでしょうか。

お取り越しや、秋彼岸会の準備でヒーヒーしている間に、安保法案が通ってしまいました。私たちは八十年前の日本社会を批判していますが、子や孫は私たちをどう評価するのでしょうか。

そんな悔悟の念を抱いてバタバタしている間に、はや一か月が過ぎてしまいました。さあ、お取り越しも目前です。

（有坂）